

第101回二科巡回展（京都展）

2016年11月24日（木）～12月4日（日）京都市美術館二階

●絵画部・彫刻部

第101回京都展は2016年11月24日（木）～12月4日（日）までの10日間、京都市美術館で、例年通り二階スペースに京都新聞の共催により、独立展との同時開催となりました。

絵画151点、彫刻14点、デザイン73点、写真83点、計321点の展示であり美術館の規模からして全作品を展示することが困難であり、やむなくこの展示数となっております。しかし、入場者は6448人で期日が2日少ないにも関わらず100回展を221人上回りました。

又、2017年の4月から美術館の改装により本館の使用が出来ず、以降3年間は別館の方での開催となり、展示数も増すまじり込む必要が出てきます。その上期日も1週間と短くなり、展覧の効果的な方法を考えなければなりません。

101回展のイベントとしては、11月26日（土）、12月（土）の2回、1時から写真部、3時から絵画部とギャラリートークを行い、11月27日（日）に2時より三重奏によるミニコンサートを開きました。

受賞者は、東京都知事賞に黒川彰夫、会員賞に藤谷進、会友賞に大洞定治、田中正子が受賞し、それに加え会員推挙に瀬野道子、根木悟、会友推挙に木村信子、福島菜菜と京滋の作家の活躍が見られ心強いものを感じました。

今後、101回展から再スタートとして動き出した本会が、若手の育成と共に中堅、ベテランの更なる努力が求められる事となり、常に各自が自分の課題を持ち、それを追求していく精神を養っていくことが重要な事となります。そこに、二科会の更なる発展があると思います。

●デザイン部

デザイン部は全国巡回作品68点と京・滋関係5点の73点の展示。自由テーマ・ポスターや特別課題「日本遺産」をテーマとしたポスターを中心に、イラストやマルチグラフィックの4部門にわたりバラエティに富んだ作品で内容の濃い展示となった。マルチグラフィック部門の今井泰子（京都）の作品が京都新聞賞を受賞し華を添えた。

●写真部

昨年は100回の記念展を終え今年は二科会の伝統と歴史を続けていく新たな出発点の101回展です。

二科会写真部は年齢、性別問わず多くの人々が楽しむ事が出来ます。出展されている作品はジャンルも色々で多くの作品が展示されています。来館された方々は熱心に鑑賞されて好評を得ました。

101回展を気に出品者は二科会発展の為に初心を忘れずの気持ちで作品作りに精進していかなければと思います。

